

カトリック光教会

2025 年 8 月のミサご案内

1 (金)	聖アルフォンソ(リゴリ)司教教会博士	ミサ	休 み
3 (日)	年間第 18 主日	ミサ	9 : 00
8 (金)	聖ドミニコ司祭	ミサ	休 み
10 (日)	年間第 19 主日	ミサ	9 : 00
15 (金)	聖母の被昇天	ミサ	10 : 00
17 (日)	年間第 20 主日 (聖体賛美式)	ミサ	9 : 00
22 (金)	天の元后聖マリア	ミサ	休 み
24 (日)	年間第 21 主日	ミサ	9 : 00
29 (金)	洗礼者聖ヨハネの殉教 (聖書勉強会)	ミサ	10 : 00
31 (日)	年間第 22 主日	ミサ	9 : 00

聖 母 の 被 昇 天



◇霊肉ともに、天の栄光に◇

16世紀になると、聖母が肉身と靈魂ともども天の栄光に上げられたという信仰は、西方教会でも一般的に認められるようになった。19世紀から20世紀にかけて、聖母信心の波に乗って聖母の被昇天を教理として宣言することを要請する多くの嘆願書が歴代の教皇に提出された。それでポオ12世は 1946 年、全司教に聖母の被昇天について意見を出すように依頼し、圧倒的多数の賛成を得てから、1950 年11月1日に教皇令「ムニフィケン ティッシムス・デウス」を發布し、「聖母がその地上の生活を終わった後、肉身と靈魂とともに天の栄光に上げられたことは、神によって啓示された真理である」と宣言した。この宣言に、「死んだ後」という表現ではなく、「地上の生活を終わった後」という表現が用いられたのは、聖母が死ぬことなく神によって天の栄光に上げられたとする一部の神学者の説があったからである。教皇はこの説を、肯定も否定もしなかった。

カトリック教会以外の東方正教会の人々は、聖母の被昇天を認めながらも、教皇の一方的な教理宣言に対して遺憾の意を表し、プロテスタント諸教会は、聖書に書かれていない説が教理として宣言されたことに強く反対した。